

授業科目名	解剖学（人体発生学）	担当教員	教授 大谷 浩
開講年次・学期	2年前期	必修/選択	必修
開講形態	講義	時間数/単位数	12時間
授業概要			
<p>人体発生学では、並行して行われる解剖学実習で学ぶ、複雑だが精緻な人体の構造が、どのようにして順序立てて形成されていくか、ヒト胎生期における正常な形態学的な発生現象、ならびにその異常を講義により学ぶ。</p> <p>ヒトの一生の中で最も劇的かつ神秘的な胎生期において、単一の受精卵から成人にみられる複雑な諸構造が構築されていくダイナミックな過程と、そのメカニズムについて学習する。また、発生過程における異常によって引き起こされる、様々な先天異常の成因と機構についても学ぶ。さらに、近年明らかになりつつある精密にプログラムされた発生過程を制御する諸分子の機能、胎生期における発生現象が生後の健康や疾患の発症に及ぼす影響についても触れる。</p>			
G I O（一般目標）			
<p>成体における諸器官の複雑な立体構築とその意義をより良く理解するために、受精から出生さらに死にいたるまでの過程における様々な発生現象とそのメカニズムを理解し、また各発生段階、臓器・器官系における発生の異常がどのような原因によって起こり、どのような結果をもたらすかを認識する。</p>			
S B O（行動目標）			
<ol style="list-style-type: none"> 1. ヒト胎生期を構造・機能的観点から系統的に区分し、それぞれの時期における特徴的な発生現象を説明する。 2. 各器官、組織がどのような過程を経て形成されて成体のそれに到達するのか、また互いの最終的な位置関係に置かれるのか記述する。 3. 先天異常の種類・成因・頻度を述べ、その主なものについて発生病理を説明する。 			
成績評価の方法			
筆記試験により、上記各項目についての習得度を判定する。			
教科書・参考書・視聴覚・その他の教材			
<ul style="list-style-type: none"> ☆Schoenwolf et al.: Larsen's Human Embryology (5th Ed.) (Churchill Livingstone) ☆Sadler: Langman's Medical Embryology (Wilkins) ☆Moore et al.: The Developing Human (Saunders) ☆仲村、大谷（監訳）ラーセン人体発生学（第4版）（西村書店） ☆安田、山田（訳）ラングマン人体発生学（メディカル・サイエンス・インターナショナル） ☆白井（監訳）カールソン人体発生学（西村書店） ☆瀬口（監訳）ムーア人体発生学（医歯薬出版） ☆塩田（訳）発生学アトラス（文光堂） 			
コア・カリとの関連			
<ul style="list-style-type: none"> C 2（4）個体の発生 C 4（1）遺伝子異常と疾患・発生 発達異常 			